

12.自由記述

問20 ふるさと青森に愛着と誇りを持つ教育の充実に向けて、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

【教育】

○地域課題の解決に向けた学習ではなく、クラス・学年でのディベートが有効なのではないかと思った。

○教職員の質の向上。先生方の郷土愛がないと感じるし、高圧的なため、協力したいとは思わない。

○青森県は育った所だから好き。現在、八戸在住、雪が降らない地域だからありがたいと思うが、こどもを育てる環境がよくない。歩道はガタガタ、ベビーカーを押しての移動が非常に悪環境。バリアフリーを進めていないのが分かる。街中だけ良くても、郊外はガタガタなのを見ていないのかと疑問に思う。こどもを遊ばせる環境がない。わざわざ、遠出して岩手まで行くことが多かった。箱物だけ作らないで、もっと市民の足元を見ていただきたい。

○公共交通手段の充実、観光客の誘致、将来性がある企業誘致等について、小さい頃から「地元が栄えないと青森県には将来がない」ことを教える。今後、半島と呼ばれるところは、国から切り捨てられる！

○幼保・小・中の教育の充実ため、教育費の増額と優秀な教師陣の確保(教育現場の働きやすさの改善)が急務であると感じる。早く立て直さないと近い将来もっとダメになると思う。

○教育指導をする立場の方の指導力不足を改善して欲しい。県外や海外など在住の経験者の知識を活かし、青森の素晴らしさと愛着を今一度教育指導にフィードバックできるよう期待する。

○医学部の生徒への給付金を増やして、医療を充実させて欲しい。

○南部と津軽の対立をなくすような教育をしっかりと欲しいと思う。同じ県内でお互いを忌み嫌う時代は終わりにすべきだと思う。お話しすることはたくさんあるが、誌面が少ないのでこれくらいにします。

○人と人の交流を。子育ては他人の協力なしには難しい。教育も同じ。インターネットはツールであり、過度に頼れば人との交流が少なくなる。これをこどもたちに伝えて欲しい。

○とにかく人口が減っていて、こどもは私が生きていた(こどもの頃)時代が違いすぎてビックリする。こどもの教育といっても人と接する時が少ないのでは？今のこどもたちはネット中心なのでしょうかね。

○青森県は全国で所得が2番目に少ないところであるも、全国の大学の授業料を納めるには定額であることに非常に憤りを感じる。所得に応じた授業料にしてもらいたいものである。

○教育する必要があります、愛着と誇りを持つための。

○私は大学を出ておりませんがこどもの減少等が大きくなっている現在、なぜ教育施設(私立大学等)を増やすのでしょうか、経営に無理が出てきそうでこわい。確か国からも予算の配布があると思っていましたが。直接身になる教育施設が少ない。

○パソコン教育の充実→ITに強くなる→将来の就活に有利、高等教育には必須→青森の情報発信者になり得る。

○誰もが偉ぶらず、ダメなものはダメと言える人間形成と誰をも愛する平和の心を持つ教育を、学校教育の場からやり直さなくてはならないと思う。

○非常勤講師への待遇改善をして欲しい。各地区にもっと文化的な事業を発展できる拠点を作ってもらいたい。情操教育をもっとはぐくむために音美事陶芸などを指導できる教員を採用してもらいたい。

○ふるさと青森の郷土愛を育む、陸奥国の古代、近代の歴史文化の教育が必須。ふるさとを離れていく若者を食い止める。郷土愛教育の充実を！小、中学生から行って！私たちの年代には学ばなかった。そして大半が都会に出て行った経験を踏まえての意見。また、豊かな自然を守っていく教育、ふるさとの文化(農業、漁業)を守っていく教育の充実を！

○教育の充実を図るには生活能力が必要である。そのためには生活するための費用が充実していなければいけない。こどもたちがこの弘前で生活していきたいと考えるようになるには大人が弘前が良いところだと思えなければならぬ。しかし雪国、高齢化となれば除雪は大きな負担である。特に朝、ブルドーザーの残した雪はとても大変である。こういうところから改善しないと人々は離れてしまう。

○長い目で見ると、将来性を担うこどもの育ちが、とても大事だと思う。これは、とても長い時間がかかるので、長いスパンで力を入れることが必須だと思う。目先のことばかりに、とらわれがちだが、是非、一考を。

○あいさつの遂行。

○こどもへの教え込み。

○学校教育と社会教育の充実。

○私がこどもの頃は、ふるさとへの愛着とか誇りとか考えたこともないし、興味もなかった。教育もなかったような気がする。こどもの頃からふるさとの文化、産業などに少しでも意識を向かせるためにも、小・中学校でも青森について話し合う時間を定期的に設けることはできないものか？良いことばかりでなく、他に劣るところも知る必要がある。

○学校をとりまく環境にお金をかける。

○日々変化する日常に対応できる社会や人材の育成。

○社会的弱者に対する配慮や対応に関しての、サポート・フォローが必要と思う。チャレンジしたいことが、可能な限りできるような社会になってもらえれば、良い方向に進むのではないかと。押し込む教育ではなく、チャレンジや経験上から学ぶ教育もあるのではないかと。決して今を否定してはいない。

○若い人たちが都会に流出しないよう働く場所を充実させることで、人口、こどもの数が増えて、より青森に愛着と誇りが持てるのではないかと。このまま人口が減っていくと、教育そのものができなくなるのではないかと。

○津軽の見栄っ張り、足引っ張りのない、これからの教育が必要と思う。

○私は自営業なので、土・日は参加できない。でも、教育というものは、やはりこどもであっても、相手から学ぶということが大切だと思う。これからもよろしくお願いします。乱文で失礼いたします。

○今は小学生から英語を授業として取り入れているが、私の世代としては国語力もままならないのに、英語を小学生に授業として取り入れるのはどうかと思ったりしている。それよりも、青森（地元）を知る授業とかあってもいいかなあと思うのだが。青森を見直して、青森の良さを考えてもらいたい。

○いじめ・ハラスメント防止・性暴力をなくす・こころを大事にする・人生を良い意味で楽しめる・情報との付き合い方（ネットなど含め）・防災（ジェンダー、障害者の視点を入れたもの）・経済について・食育・介護について・気づかい・思いやり等の教育など、いかがでしょうか。

○教育の充実はもちろんだが、その先を考えた活動。人口減少もあるが、自分たちの地域で育み、働ける場所があることが望ましいと考える。

○食・文化・歴史・産業・祭り等に重点をおいて欲しい。特にこどもたちに伝えて欲しい。

【学習】

○自慢の大自然や桜祭り、ねぶた祭り、岩木山などについて、もっと学習機会を増やして欲しいし、青森県を弘前市をもっともっと好きになるように知識を持って欲しい。自分も、仕事で地元を2年離れた時に特に実感した。

○DXなど今後需要が増えそうな分野の学習機会と学習場所の提供を、青森県主催で提供して欲しい。

○他県の取組として、山村留学のような他地域から来た生徒・学生に対する交流事業があったりする。もし、外部の人間に知ってもらって、定住・移住を図るのであれば、そのような取組を行なってもいいかと思う。過疎地域に取り残されていく若者の支援も大事だと思うが、県内企業との関わりを小さいうちから持てるような取組を行なってもいいかと思う。

○こどもが小学生の頃、この地域について学習してさまざまなことを学んだ。自然や食べ物は素晴らしいがこの地域にずっと住みたいという愛着が湧いたということまでには至らなかった。ずっと住みたいと思うには、どんな年齢の人たちもどこから来た人たちも喜んで受け入れて一緒に活動していける地域づくりが必要だと思う。

○他の国や地域の社会構造や問題、解決への取組などを、総合的に学習し、自分達ならばどうするか考える機会を多く持つ必要があると考えます。これにより、他の地域でもそれぞれに色々な問題があり、それぞれに、その地の人々が問題を解決しながら暮らしていることを知ることにより、逆に自分が暮らす地の良さを知ることができ、自分が暮らす地での問題は自分達が解決していくものだという主体性が生まれるものと思う。この時、例えば、先生以外の大人も学習に混ぜるといったことによって、自分の親や学校の先生以外の大人とこどもが意見を交換しあう機会を作ること、大人こども双方の社会（社会性）を広げることに有効と考えます。こどもを取り巻く大人が広い知見を持たなければ、こどもが広い知見を持つことはできません。つまり、自分達の土地や環境の良さ感じることもできない。広い知見を持つことは、例えば、不登校児童の問題にもつながることと考える。

○結局、地域の歴史の学習に行きつくように思われる。（特に、優れた人物についての学習）

○問19で⑩と表示しましたが、公民館等で自分にできることをこどもたちに教えたり、一緒にできることを楽しんだりそんな社会になったら良いと思う。

○近ごろ日本史を学び直す大人が増えているそう。理由として、自国のことを知らないと恥ずかしいから、と大人として教育を身につけたいからだそう。郷土の歴史を学び、郷土愛をもっと高めよう。

○職場に新しく入ってくる子を見てみると「考える力」が足りないと感じる。こどもの頃から「行動に対する結果と責任」について教え、考える習慣を醸成することが大切だと思うので、参考にさせていただけますと幸いです。

○日本語を話せるような学習が必要だと思う。

○地域を知る学習をこれまでのように学校で取り組むと共に他地域との交流を進める。

○この地域は縄文文化が現代に至っている。この歴史ある文化、人としての営みをこれからのこどもたちに発進（教育）して欲しい。

○農業が主の地域なので、仕事で使用する役立つ学習、資格の講座の場を無料、安価で企画していただければと思っている。

○住んでいる地域の歴史をもっと深く知りたい。

○青森県全体を知る取組を各自治体や教育機関で行い、自分が住んでいる地域以外にも目を向けてみる機会があればいいと思う。

○大人がこどもたちに対し、地域の欠点ではなく魅力を伝えていくことが大事だと思うので、地域の人から地域の魅力を学ぶ学習の機会が多くあればいいと思う。

○学校が地域の人材や団体とつながった学習活動を計画した際に、サポートしてくれる体制や予算。

【体験】

○幼稚園や小学校のうちからもっと地元の祭りや、弘前ならリンゴ収穫体験等、文化の体験機会を増やせば良いと思う。実際に体験する方が記憶に残るし、学びにつながると思う。
○県内の観光名所や工場見学などをするバスツアーなどがあると、楽しみながらふるさとの良さを知ることができるのかなと思う。私も実際に中学生の頃、社会科の先生が企画したバスツアーに参加して、身近でありながら知らなかった県内の食べ物の工場見学や、観光名所を巡ることができ、今でもとても強く印象に残っている。

○体験

○青森県外へショートステイしてみる。県外に住んでみて初めて青森の良さに気がつくことがある。逆に青森の不便さ、多地域の良さにも気付ける。多地域のいいところは取り入れて、青森の不便さをなくす。

○こどもたちの郊外活動を増やして地域に対する感性を養うことが大事と思う。例えば、公園・遊び場の整備、スポーツ設備、人材、歴史を知る機会など、ここにいて楽しい・安心だと思える体験をする。大人もこどもに、楽しい・美しい・美味しいという感動や体験・知識を伝えていくことが大切だと思う。大人が愛着を感じないとこどもに伝わらない。

○海や山などの自然の良さを知って欲しい。（身近にあるが、外に出てみないと気がつかないかもしれない）たくさんに伝統芸能や行事にふれる機会を作って欲しい。

○未来を担うこどもたちが、ずっと青森に住みたいと思えるように、自然の素晴らしさや食の大切さを体感してすごせるようにして欲しい。

○青森にもいい所がたくさんあるなあと感じるようになったのは、どちらかというと「大人になってお酒が飲めたり、自分で好きなところに行ける（車）」ふうになってからの印象がある。（私もそうでした）小中学生などのうちに、自然や文化などに触れる機会（体験）がたくさんあるといいのかな？と思う。

○青森県はとても素敵なふるさと。しかし、こどもの頃は良さを知り、考える機会が少なく、大人になってから良さを感じた。幼稚園から、高校、大学等まで一貫した体験、学習機会があると良いと思う。また、他県にある「大好きポケモン」等、若い人が興味を持つような話題や機会があると主体的にふるさとを知ろうとするきっかけになりそう。地域ごとに違う良さがたくさんある青森県の良さを、どの地域の人も理解し愛せたらいいと思う。

○さまざまな体験の場を設けて興味を持ってもらう。古い文化に触れて良さを教える（茶道等）

○学校の中だけで学ぶよりも、見学・体験等、実際に肌で感じる事のできる経験をするのが大切だと思う。（遠足、校外学習、ゴミひろい、除雪、売り場等）五感を使う。（見る、きく、たべる、声を出す、汗をかく、楽しい、苦しい、大変、悲しい、うれしい等）

○こどもたちが体験できることがもっと増えれば、将来につながるのではないかな？と思う。

○小さい頃からいろいろな活動に参加したり、体験をすることが大人になった時ふるさと愛につながっていくと思う。家庭環境も考慮し、貧困世帯のこどもも平等に教育や体験活動ができるように配慮して欲しいと思う。学校では地域の社会見学や出張授業、体験教室などを充実して欲しい。こどもたちに良いアドバイスをしてくれる大人が学校や地域にたくさんいて欲しい。そういう人材を育てて欲しいと思う。

○こどもたちが在学中にこれまで以上にさまざまな体験ができるようなカリキュラムを作っていただきたいと思う。（農作業体験、介護施設や保育施設での体験、観光ガイド体験など）

○親子でいろいろ体験していけば良いと思う。

○小さな頃からの周知は必要だと思う。興味を持たせて持続させる。社会科見学や学習体験など、さまざまな人との交流も必要かと。語学留学やホームステイなど。

○小学校の時に体験した「クリーン大作戦」に参加したことを、今でも誇りに思う。あの時ゴミ拾いをしたことで、ゴミを捨てる（ポイ捨て）をするという気持ちにはならない。道端のゴミを見ると目立つ。捨てる人をなくす、ポイ捨てしない心を教育に入れて欲しい、少しでもきっかけになると思うので。

【子育て】

○「こどもたちを育てやすい」について、若い夫婦が県外の知人に自慢できる。そのような環境が必要。例えば、保育園や小学校に通わせてとても安心できる。学費的に安いなど。

○こどもたちを育てていくのはもちろんだが、今、こどもを育てている親世代から上の世代が愛着ある青森の魅力を発信できる人に変わってくれと、より促進されると思う。

○職の充実と子育て世代に手厚い環境。

○小学校教育現場の職員の意識を変えることで、こどもたちはもっとのびのび育つことができると思う。

○厳しさも含めて、この地での生活を謳歌することが大事だと考えている。また、そういう人を紹介する機会も設けていただければ。

○子育てのしやすい地域になって欲しい。

○父母の社会的教育の基、こどもはふるさとを愛せる。

○不登校のこどもが、学校以外の場所などで安心して勉強できる環境があったらいい。学校に行けないこどもが年々増えていくと感じたため。

○私を含めて津軽弁を使う人が減って、こどもたちは津軽弁を「知らない」ことになるのでは…県外からの先生方はもちろん「知らない」でしょうから、津軽出身の津軽弁達者な方に少しでも多くの津軽弁をこどもたちに…余計なことでしょうか。
○こどもの貧困、ヤングケアラーなど、目に見えづらいこどもたちの現状に目を向けた教育が温かなものであるようお願いしている。
○他人に思いやりのある心を持ち、人の痛みの分かる人間に育つこどもを育て、ふるさと青森を大切にしたい。大人が持つ知識を使い、こどもに伝えることで青森愛が生まれてくるのではないでか。
○障がいのあるこどもを持つ母、各学習会に出席したくてもこどもを預ける場がない。受講時間帯預かってくれる場を設けて欲しい。福祉施設に通っているが「日中一時」を行っている事業所が少ないので1ヵ所でも多く行っていただけるよう、各事業所に対して補助金的・人材的支援をお願いしたい。

【まちづくり】

○こどもたちが大人になったとき、地元に戻りたいな、子育てしたいなと思わせてくれるようなまちづくりをして欲しい。
○エネルギーのある町になればいい。いつもなんか頑張ってるね、という活気みたいなものは感じないので先が不安。
○住みやすい環境を整えば、そこからつながりなど広がっていくかなと思う。
○犯罪が多くなり過ぎた。理想は「じゃりん子チエ」の時代のような付き合いや、どんな人でも声を掛けられるような、そんな気さくさが「地元いいなあ」につながるように思う。実際難しいが。
○冬の市道など生活道路が、除雪作業が入らない事が多いので、通学路などこどもたちがとても危険で。安全に通学できるようにして欲しい。
○交通機関を充実させること。医療機関の充実。
○ねぶた期間や冬季期間は県内・外また外国人との交流ができる催し物を、頻繁に行って欲しい。
○若者が地元に戻って力いっぱい頑張れるような豊かで充実した働ける場所作りに尽力していただきたいと思う。地元でUターンできる環境作り。
○若い人が住みたいと思える地域になって欲しい。
○よい町にして下さい。
○今、仕事をしていて感じることは、昔からの学都なのに若い人が歩いていない。県外へ行ってしまおう、私もいずれ運転しなくなったらゾンビ化した老人の1人として街に溢れる一員なのかも…廃れた街を蘇らせるには常に観光客を呼び込めなければ（観光だけでなく、体験も含めて）それに対応するために、若者も一緒に外国語を気軽に安く学べる場所も欲しいし、図書館の移動型もあちらこちらに欲しいと思う。まだまだ学びたいし、動けそうだから。ただ交通の便は全く不便ですが。
○通学路の歩道の除雪をしっかりと、安全にみなさんが歩けるように、気づかいをお願いしたい。
○五所川原に住んでいるが、文化や芸術のイベントとか公演とか、すごく少ない。青森、弘前まで足を運ぶが、公演だけでなく、身近に体験できる場や施設がない。例えば、弘前はヒロロでいろいろな講座があり、青森も駅ビル、サンロードで。あきらめてはいますが、もう少し楽しんで暮らすことにチャレンジしたい。
○人口減少の中、鎧となるこども（若者）も地元を去る。ますます地域住民同士のつながりが薄くなる。そのような中、地元で愛着や誇りを持つ人はいなくなるだろう。下北地方がいい例である。まずは町づくりを考えた方が良くと思う。

【町内会・各団体での活動】

○夏は町内会の運動会等があるが、冬のイベントがない。近くの公園には通勤族の家族が雪ダルマ等を作りに来るが、除雪した雪を利用したカマクラ造り等のイベントがあれば良いと思う。合浦公園までは遠いから町内会で。
○こどもが小さい頃、町会のこども会があり、折々の行事（クリスマス会・もちつき・バス遠足etc）や廃品回収など親子で活動していた。現在は少子化でまたこどもをめぐる環境が変わったからか（スポ少や習い事）そのような活動は見られなくなった。懐かしく思い出す。
○弘前の各町内に居住している人が、困ったこと、心配なことなどの相談は、町内会長さんや、民生委員さんがいると思うが、もっと身近に感じる方を配置させるのはどうか。
○町内会が高齢者だけになってきて、意見や考えた方が古い、頑固なことがある。町内イベントも高齢者向けの企画ばかりで、町内会費を無駄遣いしているときがある。青年町内会も作り、若い人たちの意見交換の場や、これから世代交代する前により良い町内会を作る話し合いの場を作るべき。
○若い人は生活のために働くことを大事にしなければならず、老人とのつながりが薄くなっていく。少しでも生活が豊かになる方法を老人になれば考えたりする。ただ、住民同志のつながりと言っても、お金をかけたり、難しい勉強を望む人は少ないと思われる。たとえば、集会所に集まっても、昔はストーブを無料で使っていたが、今は有料となった。老若男女、楽しく、少しでも収入につながる作業をしたり、老人の手作り弁当で若い人に会食を呼び掛けたり、生活に役立つチーム作りをすると、続くかもしれない。（たとえば、畑にジャガイモやサツマイモを皆で植えて、イモ堀りイモ煮会とか、イモを皆で分けて持ち帰るとか）。昔のような青年団や婦人会、老人クラブ等をリーダーとして進める人がいなくなってしまった。皆さん生活に追われているように見える。リーダーになった人に研修をしてもらい、少なくとも賃金を支払うべきだ。

○私が現在住んでいる地域は、町内会で独自の行事を開催し、他地域からの参加も受けながら、とても楽しくしている。特に秋祭りでは多くの子どもたち、保護者の方々。
○うちの町会は地域の小学校や中、高等学校のボランティアに助けをもらい、交流があるのでこれだけでも良いことだと思う。

【地域】

○自然や観光だけでなく、暮らしやすさ(雪対策や都会の便利さ)が住んでいる人には必要だと思う。
○どんどんお店などがなくなり、せつかく数年前に定住し始めたのに楽しめるどころ、行くところがなく、冬は除雪も来ないのであまり魅力を感じない。
○自然・観光・文化・食などたくさんの魅力的なものがあるのに、人との関わりで「??」と思うことやがっかりすることが多く、もったいないと思う。
○親が子どもに地域の良さを伝えることがほとんどない。私は3人の子どもを土・日になると、海や山に連れて行き、魚つりや山菜採りをしたものだが…。今の親はデパートや遊園地に連れていくことが大事だと思っているようだ。近くに素晴らしい自然があるのに。
○子どもや孫に青森は(教育・仕事・食・文化・歴史・自然・福祉等の充実)良い所だよと伝え続けたい。
○地域住民、高齢化が進んでいる。新興住宅が増えて、住民の方々の名前も分からない状態。いろいろな制約、守秘義務がある。どのように行動をとればいいのか分からない。乱筆、乱文お許しくださいませ。
○楽しいこと、嬉しいと思えることを県や移住地域で感じ取れることを増やしていくと良いのかなと思う。

【地域活動への参画】

○地域社会との連携が大切だと思っている。地元の企業や団体・自治体そして、学校と連携、協働し、地域の課題や魅力について学ぶ機会を意図的につくっていくことが必要ではないか。そうすることにより、実社会での経験を通じて、地域への愛着と誇りが醸成されると考えている。
○子どもが小中学生のうちに、地域の活動に参画する機会を増やして、地域の魅力的な大人(積極的に地域のために活動している人)に会う機会を増やせばよいのではないかと思う。例えば、子どもインターンや農業体験、もしくは地元の祭りの運営に携わるなど、何か中長期的な活動を通じて、学校の先生や親以外の地域の方々大人に会って、経験・体験ができればよいのではないかと思う。青森が好きで青森のために活動している大人から影響を受けたり、地域に関わる活動を通じて面白さや達成感を感じたりできれば、将来青森に愛着や誇りを持って貰えるのではないかと思う。
○東京で生まれ育ったため、八戸に来るまでは「青森県＝未知の地」でした。実際に住んでみて、食文化や自然、お祭り等、八戸ならではの魅力が満載で大変気に入っている。自分の地元ではご当地と言えるものがなく、八戸で育ったらいろいろな経験ができて、楽しい幼少期を過ごせるだろうとうらやましく思う。地域とのつながりが持ちにくい(持ち方が分からない)から、これから生まれる子どもに、親もハードル低く参加できる方法があればとても嬉しく思う。
○保育口、小学校時代に地域の行事に、積極的に参加するようなしくみを作る。見学、関連団体の講習会を開催。気軽に参加できるような声掛けが必要と思う。
○他県出身で、小学生2人の親。私が小学生の頃は住んでいる地区毎に子ども会があって、夏休みや冬休みにお泊り会やレクリエーション会があり、今よりもっと人との関わり合いが多かったが、今は同じクラスでも顔と名前が一致する方がとても少ない。人との関わりが増えることは良い面も悪い面もあり、正解は分からないが、今の子どもたちは私が子どもの時よりさまざまな経験ができにくくなっているんだなと感じる。
○いろいろな活動があるが、参加しやすいのが良いと思う。申し込みしないとダメなものもあると思うが、たまたま行った買い物で、たまたま参加できたりとか。観光で来た人など、県外から来た人向けではなく、県内にいても地元を知らない人向けとかがあっても楽しいかも。
○問19の内容を実践することだと思う。8→7→2、1と実行できることが必要だと思う。私自身、そのような活動に参画したいと思う。
○子育てが終わってしまい、PTA活動も卒業し、何かできることがありましたらお力になりたいと思っているが、なかなか出る場がないのが現状。

【交流】

○住まいの市町村だけでなく、他の市町村との交流も大事かと思う。
○県内にいるだけでは気付かないことが県外、海外を見る又は交流することで発見できると思う。
○私自身は高校生まで岩手で過ごし、大学4年間は東京で、卒業後仙台に就職し仙台で結婚し2010年に主人の仕事で八戸に来て今に至る。田舎・大都会・中核都市住んでみて、八戸に足りないと感じていることは、文化的に楽しんだり、学んだりする場所(コンサート・映画・スポーツ?)が少なく、楽しむためには盛岡や仙台まで出なければならないところ。他の市や町ともっと交流して、閉鎖的から開放的になると、もっと世界が広がって愛着を持てくのではないか。
○年をとっても人とつながれる公民館などでできるスポーツやレクリエーションを増やして、参加しやすくして欲しい。

○外国との交流の充実をするために、町内にもっと塾が近くに有ったら良いなあ～と思う。冬に雪があると送り迎えができなくて。

○若い世代が個人主義で地域活動やボランティアに参加しないこと、やってもらうことがあたり前になっていて、自分が与えることをしないこと、この辺が課題。子育て世代に国や県、市町村が与え過ぎ。やってもらうことがあたり前になっているように思う。ボランティアの精神を学んで欲しい。

○ある程度の常識的なルールは必要であるが、いつでも気軽にくつろぎ、誰でも参加できる「場」があれば良い。そこから青森を愛する取組が生まれれば良い。人の意見を聴き、皆で共有できるようにする。（人を批判する場を作らないこと。）

○子育ての環境の大切さ、虐待について、プライバシーもあるだろうが未然に防ぐ事は難しいでしょうが、事件が起きてしまえば手遅れだ。地域に住んでいる高齢者の認知症の方がどうしたら良いのか、包括支援センターの利用をPRすべき。地域の方々のつながりを大切にする。

○地域に暮らす大人たちがつながる場があって、やりがいや生きがいを持って仲間と楽しく暮らしているような、ロールモデルと出会わないから、この場所に生きること閉塞感を感じてしまうのではないかと思う。あと、いくらリンゴの産地、ホタテの産地といっても、親が食べる習慣がないと実感はないし、食べたことがない子も多い。給食で出したり、校外学習でリンゴ園へ行ったり、もっとそういう機会が必要だと思う。

○少子高齢化で地域の行事、交流などが少なくなっているのでも親も子も忙しい中でも参加できるイベント、学習プログラム、興味を引くようなものがあれば良いと思う。

○年齢、性別を超えた交流を持つことが愛着につながると思う。さまざまな交流を体験する必要があると思うが、収入による体験格差を考慮もしていただきたい。地域の人材を使うことは良いことだが、ボランティアに頼ると先細るのでは？謝礼や給料が出れば応じてくれる方が増えると思う。年齢が上がっても働きたい方、働ける方はいると思う。

○幼少期から、地域の方々との交流を持つ機会が多い環境が増えると良いと思う。

【少子高齢化】

○高齢者が多い、高齢者はあちこち身体機能低下している、障がい者と同じ、なのに出かけた先は不便が多い。集まっても集まる手段がない、祭り・イベントも行く手段がない。

○地域課題、特に少子化の問題。

○県内も高齢化、少子化する中でとても厳しい問題だが、何とか魅力あるふるさと青森を尽力下さいませ、切にお願いしたい。年寄で何もできませんが、頑張っで欲しい。

○少子高齢化による廃業、人口減少（若者の流出）これらの問題に対する対策が急務と考える。

○少子化問題にもっと取組、子育て支援を充実させることにより、地域を盛り上げていけたら、もっと愛着と誇りを持てるようになると思う。

○年配者にもっと仕事をさせて下さい。地域をきれいにするとか、環境をよくするための活動をさせて下さい。口よりも体を動かす年配者を増やす努力をした方が良いと思う。

○こどもはもちろん大切だけれども、今までの歴史を築いてくれた高齢者に対して優しさが感じられないのが今の政治状況だと思う。もっと人生の先輩方を大切にすべきだ。

○少子化が進み、小学校の部活も数が減少。地域全体で運動ができるクラブチーム（団体）も少なくなりつつある。人数が少なくなっている小学校のまわりに楽しく活動できる施設をつくるなど、魅力をプラスすることをして欲しい。

○少子化対策、人口増加を願う。

【観光】

○青森県内の祭り、自然等もっと海外にPRすべし。

○ねぶた祭り（青森市）の運営の見直し。市民から意見を聞くべきだと思う。実行委員会、コンベンション協会を開かれた会議にし、ねぶたの賞（審査）を市民も参加できるように。

○青森県の祭りは、本当に他県よりもいい祭りばかりなので、誰でも参加できる（他県の人も）機会がもっとあれば、そこに食・産業などが付いていくと思ってる。産業の発展、宿泊施設の充実や地域で働ける環境さえあれば人口も増え、愛着と誇りは、自然に身に付いていくと思う。

○青森はねぶた祭りという素晴らしい行事がある。県内でもねぶた、三社大祭といろいろある。こどもの時（小学校から高校）までもっと参加させ、大人になってからも、この体験が心に残るようにして欲しいと思う。学校単位で参加するくらいしても良いと思っている。ねぶた祭りなら、各高校ごとに中型ねぶたを制作してハネトとして参加とか。

○青森県は温泉の数が多いと聞くので、温泉が廃業しないように守って欲しい。酸ヶ湯の湯治文化も海外から注目されているし、温泉は生活に欠かせないものであるので温泉の維持管理に財源を使って欲しい。全世代の宝でもあるし、観光資源。温泉の重要性を教育できるようにして欲しい。

○県内各地にある観光施設の充実に力を入れて欲しい。特に観光地の宣伝やアピール面に欠けている面があるので、これを改善しもっと県内外・外国等にも宣伝・アピールを拡大していく必要があると思う。（私は弘前に住んでいるので、特に弘前城・リンゴ等）まず、青森とはどういうところかを知らなくては、青森を愛する心は育っていかない。豊かな自然、津軽のリンゴ畑、白神山地、津軽平野の稲作（南部の人は知らない）何より祭り、ねぶたは世界に誇る祭り（これも南部、八戸の人はあまり見に行かない）十和田湖、奥入瀬…逆に津軽の人は県南、八戸の漁港のこと、産業を知らないと思う。（三社大祭、えんぶり、美味しい魚、蕪島、白浜…）県外に出て行っても、やはり小さい頃からの学校教育の一環として、郷土を知ることとはとても大切なことと思う。しかし一番の問題は、優秀な人材が青森を出て都会へ出て行く!!「頭脳流出」これが一番問題だ。

○青森県に関して、国内外方々からいただく感想の多くは、圧倒的な自然の景観の美しさと、古い街並みについてのもの。20代の方々にも、この素晴らしさを伝える機会があれば良い。海岸線の複雑さ、車道からすぐのところにある水芭蕉の群落、木組の民家が立ち並ぶ通り、リンゴの花盛りの農道など、誇れるものがたくさんある。

【経済】

○若者の定住を促すため、ある程度高収入の職場の確保。

○高校を卒業しても若者が働ける場所が少ない。雪国でも快適で楽しい環境づくり。

○労働力不足は目に見えて深刻になっています。これからの経済等の活力アップを支えるのは外国人の方々の力にかかっていると思っている。会社・個人単位での外国人との交流や相手国の言語や文化についての勉強会的な物を作って、もっとお互いを深めていった方が良い。

○世界に誇る農林水産業が青森県にはある。しかし、1人当たりの所得が少なすぎるといませんか？貧乏県を脱出することが、愛着と誇りを持つことだと思いませんか？朝から夕方まで休みなく働いて、ボロボロの家と愛車は軽トラック…しかたなく生きているような…それで誇りだのと？あるわけない。

○物づくり（農業も水産業も林業も、伝統工芸などなど）は、尊い仕事だと思ってもらえるようだと続いていくのでは。自信を持って、誇りを持って、収入面を。

○県民の個々の所得が上がっていけば、心豊かになり、こどもにもおのずと愛着と誇りが持てるようになっていくと思う。

○こどもたちが自分に合った特技が見つけれられる、将来それが県内で身になる仕事がある青森県であって欲しい。

【企業】

○高校卒業後、大学卒業後に県内に就職したいと思えるような企業がもっと増えて、給料も安定していれば青森から出て行く若い世代が減るのではないかなと思う。青森に愛着と誇りを持っていても、まともな企業、働きたいと思える企業がなければ意味がないと思った。

【県】

- 若い人たちが県外に出ていくのは、魅力ある仕事が多く、未来に希望がもてないからだと思う。青森県のこと好きだし、魅力は充分伝わっていると感じる。青森県をもっと魅力的な場所にしようとする若い人が増えることを願っている。
- 学校教育(青森全地理についての勉強) 青森に(県・市・町・村)。県だけが盛り上がっていて市町村は盛り上がっていない。県政だけが良くても市町村にも力を入れてもらいたい。教育に。
- 青森県の遺跡巡りが好きだ。

【市町村】

- 平内町のいいところは、保育料が無料なところ。待機児童がいない。感謝。
- 三沢市は他の市町村に比べて何もしてくれない。道路ばかり直して市民のために何もお金を使ってくれない。
- 人口減少の改善策。どのように考えているか。何年後には高齢者だけの市になるのが目に見えて分かる。税収も減ることになるだろうし。むつ市に未来はないと見ている。このままではむつ市は破綻するでしょう。いくらどんなことに力を入れようが無駄金。若い方はこんなところに居る必要なく、どんどん都会で仕事をした方が身のため。大学作っても何の意味もなし。もうあきらめるしかない。こんなむつ市は。暮らすところではない。
- 村対抗の運動会などやって欲しい。
- 私の住んでいる町はついに高校もなくなった。かつて町内に小学校は5校、中学校2校あったが、現在は小学校1、中学校1だけ。スクールバスの運行もあるが、部活などで時間が合わない生徒は、遠い道を暗くなってから歩いて帰るのを見かけると胸が痛む。親が送り迎えしてくれる家庭ばかりではない。たとえ1人であっても自宅まで送り届けてくれるようなことはできないのか。また、高校の統廃合は地域を衰退させるだけだと思う。
- 大きな市でやるようなイベント等を、町、村で小規模な形ででも開催していただけると、嬉しい。地域の活性化にもなるし、こどもや大人のいろいろな経験にもつながると思う。
- 八戸って…田舎だけど、何もないけど、雪も少なく、住みやすく、便利で、と伝えたい。県内外、国外の方が来てみたいって思うにはどうすればいいかなと考えている。何かないかな？考え中。
- 小、中学生の遊ぶ所がない。天気が悪い日や冬など遊び場に困っている。三沢市は、補助金が少ない。他の市町村との差がある。
- 弘前に長年住んでいる。四季がはっきりして自然環境にも恵まれており、文化芸能においても、レベルの高い市民がいるところだと思う。ふるさとを誇れる十分な施設もあり、発表の場もあり、住み込みの良いところあるが、若い人たちの娯楽施設がないような気がする。

【地元愛】

- 食べるのも大変な家庭があるかと思うが、地域や各団体等との関わりにて、みんなで支えていけたら、地元愛も高まるのではないかなと思う。
- 他県や海外からの評価を知ることによって、改めてふるさとの良いところを知り、再確認ができると思うので、意見を聞く機会があれば郷土愛に気づけるのではないかなと思う。
- 近くにスーパーやコンビニもなく、バスもあまり走らない決して便利な地域ではないが、住民同士のつながり、人の温かさが感じられるのがわが故郷の強みだと思う。小学校時代、近所の人や皆、家族のような距離間で接してくれ可愛がってもらった。昨今なくなりつつある大切なつながりだったと、アンケートを書きながら思い出した。
- 私の町の公園にある馬の像が素晴らしい。もうちょっと木を取り払って見えるようにして欲しい。歴史あるものだ。
- 青森市内から嫁いで35年、住めば都！青森市内に居んでいるより佐井にいる方が長くなった。もちろん、機会があれば青森のおじさん・おばさん・友達に行きますが、やはり自分が住んでいるところが1番だ。不便な所はあるがね！こどもたちには、青森と下北(佐井)のハーフだと言っているがね！方言も今だに抜けないくらいに。青森県内で良かった☆
- 何事もやってみて、良ければ続けていけばいいし、ダメなら変えてみればいいと思う。青森が良いふるさとだと皆が思えるように考えるチャンスをどんどん作って下さい。
- 県外に出ないと比べることができないと思う(進学、転勤、観光？など)。親の介護で戻ってきたが、いろいろな面で全国との差を感じる(賃金、教育、物価など)。私が若い頃は青森が嫌だったが、年齢を重ねるにつれて愛着が出てきた。ある程度、経験、年数を積まないと良さは分からないかも・・・。
- 一旦、ふるさとを離れて、外からふるさとを見る機会があれば、見聞が広がるものと推測する。(必ずそうあるべきだとは思いますが・・・)
- 若い時は分からなかったが、年と共に住みやすいと思った。冬は雪で大変だが、あとは生活するのにいい。
- 青森愛に溢れている方々に意見を聞いてみてはどうか。
- 「地元愛」と「誇り」を持った両親で、いつも言葉にして感激・感動していた。こどもの頃から聞いていたせいか、私達姉妹も「地元愛」と「誇り」が強い。言葉にすることの大切さを感じている。

○こどもが「親や地域の人に大切にされた」という体験を沢山することが重要ではないか？自分が大切な存在であることを実感すると、大切にしてくれた人を好きになり、その人の背景のあるものに興味を持ち…と、やがて青森愛につながるような気がする。

○人間関係を築くことが難しい昨今だが、上が、声の大きい少数意見に振り回されることなく、ブレない指針を持ったほうが良いと思う。私は弘前が大好きで、とても誇りを持っている。ちょっとだけ昭和の感覚を取り入れたら全ての機関が良くなると思う。

○青森県は自然が多く食べ物も美味しく、きれいな場所もとても多くある。若い頃はそういう良さがあり分らず興味もなかった。もったいないなあと自分自身で感じることもある。これからの若い人たちには、もっと楽しみながら地域のことを知って欲しい。

○社会人になって、奥入瀬溪流が日本を代表する場所であることが分かった。そのようなことから、青森県の自然環境についてこどもの頃から育むことが大事であると思う。

【移住・定住】

○青森が特別なものでもなく、全国に比べても定住するための材料が少なく現状を変えるのは難しい。

○青森が好きで単身で移住した。その後、こどもも出来、青森の教育環境がより良くなることを願う。

○移住して来る人がもっと増えれば良いと思う。

○青森県内に住み続けられる定住率を上げるためにも、県内にある企業PRイベントを積極的に行うと良いかも知れない。歴史・伝統を引き継いでもらうことにも必要だと考える。

【空き家問題】

○地域に空き家、空き地が目立つ。荒れ放題で放置されているようで実に良くない。いろいろな観点から対策、改善が必要と思う。

【県民性】

○青森県貧乏な人が多く国民性が低いと感じる。自分のことしか考えない県民性。他県に住んだ時、自分や周りがどれだけ意識が低いか思い知らされた。

○青森は土着の地元民つながりの内輪で固まって外様を受け入れない体質が強く、それが発展の邪魔になっている。（私もさんざんやられた）もっと開けた形を作ることが、全ての解決へつながると思っている。教育委員会の方々も課題が多くて大変だとは思う。これからも頑張ってください。

【伝統・文化】

○祭りや伝統文化の体験はこどもの頃に体験する機会がたくさんあった方がいいと思う。大人になってからでは敷居が高いイメージがある。少しでも体験することで記憶に残ることがあると思う。

○こどもの頃、えんぶり組のある地域に住んでいて「えんぶり休み」があった。また、体育館でえんぶりが見れたり、同級生が組に参加していたりと、地域のことに触れ合う機会が多くあった。大人になってから、（あれはとても貴重な体験だったな〜）と思うことが多くあった。現在住んでいる地域は私から見ると閉鎖的で、伝統芸能を地域に広めるという気持ちは見られない。こどもたちを巻き込まない限り、大半の伝統芸能が消えると思う。ぜひ、こどもたちを巻き込んだ伝統芸能の活動をして欲しいと思う。

○「伝統」がテーマの1つと考え、芸能とか工芸品、食、など次の世代へ継承していく取組。

○黒石市では市長が「黒石よされ」に力を入れており、公民館・地区協議会でもその方針を基に協力しようとしている。学校の校長先生、教頭先生にもお願いし、よされの練習も行うようになった。学校によってやや温度差があり、実施するところと実施しないところもあったので、県の教育委員会が力を入れ、各教育委員会や学校にも早急に伝わるといい。参加に関しても先生方の協力があれば保護者・こどもも参加が増えると思われる。小さい頃から自然と慣れ親しみ、それが青森を愛する心の醸成につながると思う。

○将来を担うこどもたちへ伝えたいことは、青森の言葉、祭り、雪国の知恵など。今後、ますますAIが発達していく中で、うまくそこと付き合っていければ、青森の色がうまく残せるのではと思った。県内、各地域に住んでみて思う事は、やはり「祭り」は人と人との絆を深めてくれるので、住んでいる地域の祭りに携われるような経験を、こどものうちに積んでおくことは、重要なかなと感じる。ふるさとへの愛着が強まる気がする。

○方言が分からない人が多いと思うので、方言を大事にして欲しい。知事が標準語なので方言でもいいと思う。食文化も若者に大事にして欲しい。（もつ、じゃっぱ汁等）

○県内の市町村には昔から代々伝わる大小のお祭りがあるようだが、社会人になってから知った獅子舞の迫力に魅了されたこと、なぜか思い出した。獅子舞には特に、愛着を誇りを感じる。

【公共施設】

○教育(文化)で、囲碁・将棋のできる、公共施設を作ってもらえれば幸いだ。年寄りも若者、こども達と一緒に参加できる場所。

○冬にこどもたちが遊べる施設が少ない。結果、自宅にいてインターネットやゲームを多くしていると思う。

○駐車場を避け、天気、曜日に左右されずに、誰でも遊んだり、お茶を飲んだり、ちょっと寄れる場所が欲しい。市街地までバスを通す（小さなワンボックスカーで乗り合いが良いと思う）便数を多くする。コミュニティセンターを開放して年寄りの方でも語らいができるところが欲しい。そこへこどもたちが帰って来て、笑いが聞こえるような場所が理想。

○青森県における生涯学習をなお一層振興する観点で、県立博物館の設立を提案する。本県の魅力の源泉は県名も表す豊かな自然です。それが縄文遺跡群などを源流とする本県の歴史・伝統・文化を培い、一部は世界自然遺産にも登録されている。その独特な自然について学べる場は、学校教育を終えた県民でもよく探せば県内各地に点在してる。しかし、県全体を俯瞰して総合的に且つ深くとなると、どうか。この自然豊かな青森県にこそ大学院と同等レベルの県立自然（史）系博物館があればと願う。立郷土館を発展改組しても良い。県内の貴重な自然系データベースを扱える国内外の高度人材（教員・研究員・学芸員らの交流・連携が鍵）が集う県独自の拠点があれば、生学習者への啓蒙を通して青森愛の醸成を大いに助けることが期待される。また、波及効果として、発信される動植物等の自然情報を活かして、本県の農林水産業をはじめとする各産業の育成環境と自然との調和のとれた発展・持続性にも貢献することだろう。したがって、県立博物館の設立は、青森県が未来も自然豊かであるための有意義な教育投資になると考える。

○こどもたちや若い人たちが使用する遊具やスポーツ施設がないに等しい。冬に特にないです。弘前の運動公園、それから地域の公園にも遊具がほとんどない。

○こどもたちが遊ぶ施設がなさ過ぎる。

○（こどもと遊びの施設、コミュニケーションを取れる施設）が欲しい。

○スポーツセンター（体育館）を増やして欲しい。

○地元民がもっと地元の施設を使いやすくする取組を増やして欲しい。※市民だと格安、無料、こどもがいると格安など。

【情報発信】

○青森県は、太平洋・大西洋・陸奥湾と海に囲まれている特異な県。県挙げて、県外へアピールをしていく必要がある。また、食べ物も美味しいし、特徴のある居酒屋もある。そういったことを、発信していく必要があると思う。

○青森は、山も海も食！全てある！春桜、夏海、秋紅葉、冬スキー、食最高！空気も良い！夏過ごしやすい！それを活かした活動をするとういのはいいのではないかと。県外の親戚のこどもにマグロを食べさせた所、神奈川に帰ってからマグロ違う！と食べなくなったと聞きました。それぐらい青森は、食べ物も美味しい。

○県外からの視点を生かすこと。

○各市町村の良い所（季節のイベント、産物等）テレビ、広報紙を活用、発信することが、青森の良さを伝えるに大事だと思う。それが全国に広がっていくと思う。

【SNS、Webサイト】

○X(旧Twitter)で青森のイベントや季節の情報をまとめてくれている方がいて、いつもその方の投稿から情報を得ている。そういう情報をもっとたくさんの方に見てもらえれば興味を持つ人が増えると思う。青森の情報をまとめるアカウントなど作ってはどうか。

○「はちのヘヒストリア」のようなWebサイトの活用。

○海外の方たちが青森県内の旅行先は日本人と選ぶ場所が違って、こういうところを魅力として感じるんだなと思うことがある。インスタなどを使って、こういう情報発信されたらいいと思う。

○スマホでのSNS使用は、満18才未満は使用禁止にした方が良く考える。こどもたちの教育のため。

○以前、手話講座を受けたことがある（市で開催している？）が、更に学びたい人、スキルアップしたい人がいるのに学ぶ情報源が少なすぎる。ソーシャルネットワークを活用して発信するべき。

○小・中学校の頃、東北町（旧上北町）に住んでいたが、その地域では町全体の運動会やマラソン大会、卓球大会、レクリエーション大会（球技：ドッチボールやバッドで打つのではなく、サッカーボールを蹴って行うベースボールなど）お祭りのほかにさまざまなイベントがあった。更に（前記は地域ごとに競い合う）その地域内でも運動会があったり、こどもから大人まで交流する機会がたくさんあった。その中で、大人たちが大切にしている町のことを、こどもながらに学んでいき、更に学校では青森県のことも学んでいくため、自分たちが住んでいる県が好きになっていく土台となったと感じる。また、自然を守るため、県を育てるため、清掃活動やゴミ拾いなどのボランティア活動も結果的に、自分たちも県や自然のために何かできることをすることで青森県を大事にしたいという気持ちを育てることにつながると思う。大人の場合は今はSNS、ネット時代なので、今の紙情報にプラスして、検索に引っ掛かるように発信することが大事だと思う。県のSNSで小さな話やどうでも良い話などでも良いので、常に投稿を募ってみたりして、そのSNSがじわじわ話題になれば県内外にじわじわ伝わっていくのでやってみては？

【アンケート調査】

○私は現在19歳だ。この調査は20歳代～の県民を無作為に選んで行っていると同っている。私は今年度、20歳になるので抽出されたのかも知れないが、仮にそうだとしたら問2に19歳が存在しないのはいかなものかと思う。そういった選択肢がないからどうこうと言いたいわけではない。こういった公が行っている調査がこも適当でいいのか？と言いたい。こうした細かいところも綿密にやっていけるかは青森県の発展を目指す上で非常に大切だと思う。もう少ししっかりとやっていただきたい。

○純粹に青森に愛着と誇りを持って人が方向性を決めればいいと感じる。決定権者が実施したいことに対して意思がないからアンケートを取って県民に聞いてそれを実施するなら誰がやってもいいと思う、青森独自の施策を実施して欲しい。

○各地域の人たちとの交流しながらそれぞれの課題について考えたり、話し合ったりした方がいいのではないかな？こういうアンケートを書くたびに思う。現場に行くことが大事だと思う。

○全国に青森の良さを広める。このアンケートで何を求めているのか不明。こんなことを外部に委託して税金の無駄遣いだ。

【その他】

○良いところは誰でも言えると思う。他県と違う所で足りない所や他所を認める、受け入れることも頭がないとつながりが希薄で固定観念だけが強く残りいろいろなことが狭く感じる。

○今まで以上に、魅力ある故郷になるようにして欲しい。

○やるだけやってくれていると思うので、あと皆さんの評価なので焦って違う方向に、向かわないことを祈る。が、どうしても邪魔ものが、出現する世の中、それがイメージダウン！大きい、なかなか消えない。良いことは、忘れる。人間の気質あるかも、信望強く継続は力なり、パーツと桜を咲かせましょう。

○宮下知事の政策に理解のある方に、市町村の首長になってもらいたい。

○何も期待していない。

○こどもが「いなかだから」と嫌いにならないように、古くさい考えより新しい意見をどんどん取り入れて欲しい！（前例がないから…等にとらわれすぎだと思う）

○意見と違いますが。朝ゴミ出し時、中学生に会ってもこちらから挨拶の声掛けしなければ、返す生徒もいれば無視の生徒も。本当にいつからなのか寂しく思っている。

○教育委員会の皆様の思考、対策での行動がすごく強く、心を感じた。私の場合、こどもも孫も成長してしまっただけ、これからの充実した生活、環境に誰もが関わって行く上、気持ちと心で協力して行きたい…そう思っている。余計な言葉、申し訳ありませんでした。

○太陽光発電の害について、正しく発信して欲しい。景観が悪くなるのもだが、パネル作るために出されている二酸化炭素量など問題しかない。20年後には、ゴミになり、放置されているのが見えている。

○地元に限らず県内の事を知る機会が少なく感じる。小さな町ほど大変なのではないか。市内での催しが多く、出かけるには時間もかかり難しいのが現状だと思う。それらのことがもっと便利になればと思っている。

○頑張ってください。

○good

○県内であまり知られていない重要な歴史が多くあることを知ることがあった。そこで興味が出て、もっともっと知りたいと思った。

○美しく感じられる環境を増やして欲しいと思う。道路を整備され、他県の方が気軽に訪れて、美しい海や山々、住んでいる方の居住地が花などで飾られ、清潔な所であれば心安らぐ自然な庭園に魅了されるのではないかな。

○予算がなく、やりたくてもできないということにはがっかりだ。（聞くところによれば）

○委員会、講事内容を、公開すべき。運営予算は貰うが口出しするなはおかしい。運営予算の原資は、われわれの税金だ。

○生業一ふるさと青森に愛着と誇りを持つため。

○他の活動を教えて欲しい。情報など。

○一次産業の重要性をもっと推し進めるべき。AIとか使って進めるべきだと考える。

○藤崎のリンゴのアピールをして欲しい。

○集会に参加したくても、交通手段がないのでなかなか参加できないこと。

○行政のトップである役所自体が「閉鎖的」に感じる。何もないことが良いこと？全てのことが「お金」がないで終わってしまう。トップの能力次第で変化ができるのでは？議会も同様と思う。

○孫のことだが、はっきりした理由がある訳ではないが、たまに、学校に行きたくない！と休んだりする。本が大好きで、ゆったりと好きな本を読んでいる。そんな時、学校の一部屋で自由に静かに読書できたらいいなあ…と思う。図書館大好きだ。

○生活に余裕がないと、愛着とか誇りとか考えることもないのではないかな？だから人口が減るのでは？理想ばかりの政策では結果が出ないことは、過去の実績を見れば分かるはずだと思う。

○・ブルーインパルスならぬ、ホワイトインパルスはとても興味深く、雪国ならではのもの。カッコいいと若者も思っているはず。何かヒントになればいいが…・青森出身のタレントさんの活躍とか…。

○教育委員会の活動内容など、よく私は分からない。どんな活動、どの範囲での内容など分かればよいと思う。民間と市が、もっとスムーズにいけば良いと思っている。教育に限らないけれど。文章がうまくないので、すみません。

- 青森がいい！なぜ？一落ち着く・楽しい・和める・いやされる・美味しい・きれい・温かい・優しい・幸せ・充実・リラックス（安定）・満足。何が？一人・自然・食・生活環境・時間・利便・治安・保護・公共・理解・敬愛・工夫・整備、求められるものをいかに充実させるか。
- 社協のケアマネが私の妻に手を出した。（私の妻はうつ病だった、軽い）それを全員で隠した。（2人の人は味方をしてくれた）近所の人も知っている。名前はF。
- （お米大使イラスト）
- 「対象者死亡によりアンケート調査へ参加できません」の記入あり

【なし】

- 特にない（4）
- なし（2）
- 親の介護で帰ってきたため、特にない。